

ピリピ人への手紙

概要

著者：使徒パウロ＝1章1節

（テモテと一緒に投獄され、パウロが語った言葉をテモテが書き留めた）

宛先：ピリピの信者（聖徒、監督、執事）＝1章1節

時代を超えて私たちすべての信者に宛てられています。

執筆年代：紀元61～62年頃

執筆場所：ローマの獄中（獄中書簡）

（＊使徒の働き最後の28章のカイザル上訴軟禁中か？パスターチャックの解説によれば、1回目のヒアリングの後のマメルティヌスの牢獄の中。）

テーマ：喜び

この短い4章で、パウロは喜び”joy, rejoice”と言う言葉を14回繰り返して使用。

ローマで投獄されていても、パウロは喜んでいました。

＝私たちクリスチャンが主イエス・キリストにあって持っている喜び

＝[ピリピ4：4](#)

1章

1～11：挨拶

1節：

著者：パウロとテモテ、キリスト・イエスのしもべ”bondservant, bondslaves”

＝”doulos”（奴隷、永遠に主人のしもべ）

＝[出エジプト21：2～6](#)

私たちも主を愛しているので、主に仕えたい。主に仕えたいのは、主を愛しているから。なぜ主をそこまで愛するかは、主の愛を知ったから。（＝[第一ヨハネ4：19](#)）

宛先：イエス・キリストにあるすべての聖徒たち”saints”、監督と執事

＝聖徒たち”saints”なので、時代と場所を超えてすべてのボーンアゲインした信者たち

2節：

「恵み」と「平安」が与えられる源

＝私たちの父なる神と主イエス・キリスト

与えられる順番は、まず「恵み」、次が「平安」

＝神の一方的な恵みによって提供された和解のいけにえであるイエス・キリストを受け取って、神と和解した時初めて得られる神との平和＝[ローマ5：1](#)

3～8節：

パウロのピリピ教会への愛

使徒 16 章で、ルデヤと占いの霊に取り憑かれた女性の学びをした時に、パウロが第二次伝道旅行に出かけた時、パウロは第一次伝道旅行と同様に、現在のトルコ地方、つまり中東エリアに留まっていようと思ったのですが、聖霊によって現在のギリシャにあるピリピ、つまりヨーロッパに行くように示されたことを、地図を見ながら確認して見ました。ですから、イエス・キリストの福音が、初めてヨーロッパへもたらされた場所がピリピであり、そこから福音が世界へと広がっていったわけです。

そして、聖霊がパウロをピリピに導かれただけでなく、ピリピにいたルデヤの心も開いて彼女がイエスを信じるように働かれたことも見ました。ピリピは現在ギリシャ北部にある都市ですが、当時はローマ帝国の植民都市でした。ヨーロッパで最初にイエス・キリストを信じる信仰に入ったのがルデヤであり、彼女の家族もバプテスマを受けました。また、パウロが占いの霊に取り憑かれた若い女奴隷を悪霊から解放したが故に投獄され、牢の中で賛美していたら地震が起きて、ローマの牢の看守もその家族も信じるようになったことを見ました。パウロが牢から出てきた時には、すぐにルデヤの家に行き、そこに家の教会ができていたことが分かりました。ルデヤの家の教会から、ピリピ教会へと発展していったのです。これが、ヨーロッパで最初にできたキリスト教会です。

ですから、ピリピの教会は、パウロにとって、「神に感謝し（3節）、喜びを持って祈り（4節）、最初の日から福音を広めることにあずかってきた（5節）、投獄されている時も共に恵みにあずかった（7節）、愛の心を持って慕っている（8節）」と表現するにふさわしく、ピリピの教会は、パウロにとって特別な喜びをもたらした教会だったでしょう。

同じように、新しい信者が主にあって成長し、証し、福音を宣べ伝え、そこからさらに新しく信者が広がるのを見ることは、信仰の長い者たちにとって、ものすごい喜びです！

6節：

クリスチャンが暗記したいみことば。パウロがローマで投獄中であったにもかかわらず喜んでいたように、クリスチャンにはどんな状況でも喜びがある理由（その1）

聖書が言う「喜び」"joy", "rejoice"は、この世の「幸せ」"happy"とは違います。

Q. 喜び"joy"とハッピー"happy"の違いは何ですか？

Q. 「あなたがたのうちに良い働きを始められた方」＝私たちのうちに良い働きを初めてくださった方とはどなたですか？

Q. 私たちは、この方が何をしてくださると確信できるのですか？

義化、聖化、栄化"Justification, Sanctification to Glorification"

＝詩篇 138：8a、第一コリント 1：8、第二コリント 3：18、第一テサロニケ 5：23、24、ユダ 24

神は私たちを途中で諦めたり投げ出したりしません！

陶器師が粘土を取り上げる時、すでに完成品となった作品を思い描いてから取り上げる。

私たちクリスチャンが途中経過中に気落ちしたり不安になったりしても、神は必ず私たちを完成してくださることを覚えて喜ぶことができます。

Q. 私たちクリスチャン側ですべきことは？

主のご性質を知り、主の教えを知り、主にとって良いこと、悪いことを知り、聖霊によって、自分の足りなさを知らされ、義に飢え乾き、主によって内側から変えられ、聖霊の実を豊かに結ぶ者へと成長させてくださるよう切望し、求めること。主を愛して、主に喜んで欲しいと望むこと＝自然に主の命令に従いたいと思うから。

＝マタイ 5：6、第一ヨハネ 5：3

9～11節：

パウロの信者への祈り

(1) 知識”knowledge”と識別力#discernment”によって、愛が益々豊かになるように (9節)

(2) 真に優れたもの”excellent”を見分けることができるように”approve”

(3) キリストの日には、純真で非難されることがないように (10節)

(4) イエス・キリストによって与えられる義の実に満たされるように

義の実＝良い行い(わざ)、聖霊によって得られる実＝ガラテヤ 5：22、23

それは、神に栄光と誉れがもたらされるため (11節)＝マタイ 5：16

12～18：パウロの喜びの理由＝キリストが宣べ伝えられている

12～18節：

パウロに起こったこと、パウロの投獄の理由とその結果

使徒16章でパウロとシラスが投獄された時、彼らが牢の中で神を賛美していたら、地震が起き、パウロたちの態度、行動を見て、牢の看守も家族も救われる結果となりました。

Q. パウロがローマで投獄されていた理由は何でしたか？

イエス・キリストの福音を宣べ伝えていたからです。パウロはローマで投獄されている間も、誰にでも福音を宣べ伝え、神への祈りや感謝、賛美を欠かさなかったことでしょう。

その結果、何がもたらされたか？

＝ピリピ 4：22 (カイザルの家に属する人々が救われていった)

多くのクリスチャンがますます大胆に神のことばを語るようになった

様々な動機から、キリストが宣べ伝えられていた。

今でも、そうですね。クリスチャン、キリスト教会は、キリストが正しく宣べ伝えられているのであれば、分裂するのではなく、喜んで福音の前進のために協力すべきです。

18節：

パウロの喜びの理由＝キリストのゆえに投獄された結果、神のことば、福音が広がり、イエス・キリストが宣べ伝えられていた。

これが、私たちクリスチャンがどんな状況の中でも喜ぶ理由(その2)

私たちが試練を通る時も、神は全てをコントロールしておられ、神の良い目的へと用いられると知っているから。

＝創世記 50：20、ローマ 8：28

私たちクリスチャンは、イエス・キリストにあるがゆえに、敵からの霊的戦いを受ける時、神から試練を通らされる時、人生の中で苦しみや困難の中にある時、そのような状況でも喜んでいられるのは、この真理ゆえです。

そして、クリスチャンが迫害の中でも永遠への希望があるがゆえに喜んでいることが、証する機会へとつながります。

=[第一ペテロ3：13～15](#)

19～26：パウロの人生の目的=生きることはキリスト、死ぬことは益"gain"

19節：

パウロは聖霊によって、自分が解放されること（それが神のみこころであること）を教えられていたようです。（この後の22、24、25、26節からも明らか。）

20節：

パウロの人生の使命（ミッション）、情熱（パッション）、1番の願い
=自分を通してキリストの素晴らしさが現され、キリストがあがめられること

21～26節：

二つの間で板ばさみ

21節：生きることはキリスト、死ぬことは益"gain"

=これが、私たちクリスチャンが喜ぶ理由（その3）

でも、これが本当に喜びとなるには、自分にとって生きることは何なのか、死ぬことは何なのか、熟考する必要がある。

自分にとって「生きることは～です。死ぬことは～です」言う文章を埋めてみましょう。

（1）生きることはキリスト

パウロにとって「生きることはキリスト」とは、20節で見たように、パウロの人生の使命、情熱、1番の願いが、自分の人生を通してキリストがあがめられること、と言うことです。

「生きることはキリスト」とは、主イエス・キリストを体験を通して知り"ginosko"、心と思いと力を尽くして主イエス・キリストを愛して、キリストのしもべとして従い、自分の人生を通して主イエス・キリストが人々に知られ、あがめられること。

Q. あなたにとって、生きることは何ですか？

（パスターチャックのことば）

私たちが人生で一番大切なものは神であるべき。私たちにとっても生きることは「キリスト」であるはず。自分の人生にとって一番大切なこと、自分にとって生きることがそれ以外（地位、名誉、力、権力、金、家族、人間関係など）なら、偶像礼拝しているのです。それに気づくこと！

（2）死ぬことは益"gain"

Q. あなたにとって、死ぬことは何ですか？

私たちのこの地上での人生は一時的で、この地上では寄留者。私たちは永遠の故郷に向かって生きている。信者の故郷は天国なので、常に天を慕っており、信者にとってこの地上での死は「卒業」であり、「故郷」に戻ることに。

=ピリピ3：20、21、第二コリント5：1～10、黙示録21：1～4

27～30：キリストのための苦しみ=キリストにある特権、喜び

27節：

(1) キリストの福音にふさわしく生活しなさい。

”Let your conduct be worthy of the gospel of Christ”

=エペソ4：1

(2) 霊で一致して堅く立ち”stand fast in one spirit”、福音の信仰のために奮闘”striving”

私たちクリスチャンの生活の中での行い、ふるまい、試練や迫害の中での態度は、私たちの父なる神に栄光がもたらされ、主の御名に栄光がもたらされるものか、それとも主の御名が汚されたり侮られたりするものか、また主の御名が全く知られずにいるのか、一人一人吟味する必要がある。

28節：

霊的戦いの迫害の中でも恐れないでいる”not in any way terrified by adversaries”

=エレミヤ1：7、8、ローマ8：31

29、30節：

キリストのための信仰だけでなく、苦しみも賜った”granted”

初代教会の人たち、そして旧約時代のヘブル11章の信仰の人たちのリストから12：1までにも見れるように！

=クリスチャンにはどんな状況でもイエスにある喜びがある理由（その4）

この前送ったデボーションにもありましたね！

=マタイ5：10～12、第二コリント4：17、ヤコブ1：2～4、第一ペテロ1：6、7、第一ペテロ4：12～14

♪♪ He who began a good work in you ♪♪